④

こっそりごっそりまちをかえよう。

三浦丈典／彰国社

「問い」からはじまる探訪体験

「となりのいえが空き家になったらどうやってつかうか作戦を立ててみよう」「1日何本の木を見たか、かぞえながら生活してみよう」「いえに降った雨がどこを流れてどこに行くか、つきとめてみよう」など、まちをかえるためのユニークな問いをベースに、書籍は進みます。身の回りへの視点が変わることからはじまり、いろいろなまちを訪れてみたくなる一冊です。（赤土）

③

天人五衰
—豊饒の海・第四巻—

三島由紀夫／新潮文庫

海に行きたくなる三島文学の完結編

三島由紀夫の遺作で輪廻転生の物語の最終巻。生まれ変わりと思われる美しい少年は静岡県清水港の通信員。行きかう船を正確にチェックしているころは邪悪な本性がまだ隠れていた…。大変などんでん返しが待っているけれど、冒頭を読むと絶対に船を見に行きたくなると思います。今ならシリーズタイトルの「月の海」に行ってみたくなるかもしれません。（角田）

②

神様はじめました

鈴木ジュリエッタ／白泉社

「ご縁」は自分で結びに行く！冒険心を刺激

私が一番好きな少女漫画です。主人公の女子高生が縁結びの神様になってしまったところからはじまる物語。出会いも別れも、すべて縁の糸でつながっており、巡り巡ってまた出会う…。今いる場所から一歩外に出て、新しい縁に出会いたくなる、冒険心をくすぐられる作品です。活発で行動力MAXなヒロインにも、影響を受けているかもしれません。（山田）

①

0メートルの旅
日常を引き剥がす16の物語

岡田 悠／ダイヤモンド社

距離は関係ない。「旅とは何か?」を考えたくなる

世界70カ国を訪れたライター兼会社員の筆者が綴る旅の記録。南極からはじまり、モロッコやインドといった海外から、仙台や国立（くにたち）、近所の郵便局、そして自分の部屋など、「遠くに行く」だけが旅ではないことを教えてくれる一冊です。ハプニングや偶然を受け入れる勇気をもらえるほか、「ここではないどこか」はいつだって自分次第と気づかされます。（菅野）

撮影／平山 諭

本や漫画も私たちを旅にいざなってくれます。
キャリアガイダンス編集部がおすすめする
「旅に行きたくなる一冊」をご紹介。
ぜひお手にとってみてください。

⑧

乙嫁（おとよめ）語り

森 薫／青騎士コミックス

悠久の大地に生きる シルクロードの生活文化

イギリス人探検家が各地で出会った、乙嫁（「若いお嫁さん」「美しいお嫁さん」を意味する古語）にまつわる物語。中央アジアの架空の地域を舞台にした漫画ですが、綿密な取材により描かれた衣装や食べ物、風俗に旅心を誘われます。シルクロードを通して文化の行き交う地域の中で、登場人物たちも旅をする。馬に乗る旅もいいなあ…と夢が広がります。（江森）

⑦

深夜特急1
香港・マカオ

沢木耕太郎／新潮文庫

駆り立てられる 旅文学の金字塔

この作品に駆り立てられ、旅に出た経験をおもちの方もいるのではないでしょうか。かくいう私もその一人です。陸路2万キロをバスで目指す旅の物語の第1巻。スマートフォンがほとんどを教えてくれる今だからこそ、自分の足で探しまわったり、自分の目で見たりすることの大切さ、旅の「醍醐味」に何度だって気づかせてくれる私の旅文学の金字塔です。（牧野）

⑥

死ぬまでに行きたい海

岸本佐知子／スイッチ・パブリッシング

旅の風景から思い出す 日常の機微

出不精だと自称する翻訳家・岸本佐知子さん。彼女がでかけた各地の風景から想起するあらゆるものごとを綴ったエッセイ集です。読むと不思議と、忘れてしまっていた些細な記憶が呼び起こされ、それらは旅先だったり近所のことだったり、さまざまな地に置いてきた自分の断片の存在を思わされます。HPには読者の記憶が集まる地図があり、こちらも必見です。（中原）

⑤

わたしのマトカ

片桐はいり／幻冬舎文庫

北欧の息遣いに 思いを馳せる

「マトカ」とはフィンランド語で「旅」のこと。このエッセイは俳優の片桐はいりさんが映画『かもめ食堂』の撮影後に1カ月フィンランドに滞在した際の記録です。豊かな自然や人々のリアルな生活が独自の目線で語られていて、現地に行きたくなります。実際に私も昨年末行ってきました。外国に住む弟に約10年ぶりに会いに行く『グアテマラの弟』もおすすめ。（市村）